

HALZ社内報 ChatPlus: 労務相談 AI「HALZさん」

HALZのHPに、新しく労務相談AIチャット
ボット「HALZさん」が登場しました!

労務相談受付中!
お気軽にお問合せください



ぜひ一度、HALZさんに話
しかけてみてください!

社員の皆さんが日々のちょっとした
労務の疑問を、気軽にAIに相談
できるようになっています。HPの
トップページにあるチャットアイ
コンからすぐアクセス可能です。

- ・生成と創る、
人事労務の新しいカタチ。
- ・法改正も**即対応**。
- ・問い合わせ対応も**自動化**。
- ・省人化しながら精度アップ。

日々の業務の中で、「AIってどんなふうに使われているの？」

プロフィール

奈良県立大学卒業後、統括本部人事企画部、人事サービス部等を経験。

現在はHALZで生成AIプロジェクトリーダーとして活躍中。日本のHR分野の課題に対し、AI技術と専門知識の融合による人事労務コンサルティングの推進と開発に尽力している。



今回は、HALZの新しい取り組みとして注目を集めている「AI労務相談ボット・HALZさん」の開発に携わったメンバーにお話を伺いました。

AIが急速に進化し、私たちの働き方やコミュニケーションの形も変わりつつある今。「人の力」と「テクノロジーの力」をどう融合させていくかは、多くの企業が直面する大きなテーマでもあります。HALZでも、日々の業務効率化や情報共有の在り方を見直す中で、「AIを使ってもっと人を支えられないか」という想いが生まれました。

その中でスタートしたのが、労務相談にAIが寄り添う新しいプロジェクト—“AI労務相談ボット・HALZさん”の開発です。プロジェクトの立ち上げから開発・改善・運用までをリードしてきたのは、社内でも頼れる存在として知られる村社貴美子さん。日々の業務をこなしながらも、未知の分野に挑戦し続けた彼女の姿は、チームに多くの刺激と勇気を与えてきました。

今回は、開発の裏側や実際にAIを導入して感じた変化、そして「人のために働くAI」という想いについて、村社さんにじっくりお話を伺いました。



もともと労務相談の分野で、「ここを改善できたら」という思いはありましたか？

従来の労務相談は、顧問契約の有無や、弁護士・社労士さんに相談する時の**心理的・金銭的なハードルがあり、なかなか気軽にできない面**がありました。また、相談する側も、自分の悩みをメールなどでまとめるのが大変で、「うまく説明できない」という課題も感じていました。チャットボットなら、**24時間、言葉が足りなくても対話を重ねながら気軽に相談できる**。その環境を作りたいと思いました。



村社さんご自身、この取り組みの中で特に大切にされていた思いは何ですか？

一番は、「**もっと労務相談を気軽に、簡単にしてもらいたい**」という思いです。これが全ての根底にあります。



では、「AIだからこそ実現できること」には、どのような点に期待していましたか？

2つあります。1つは、**24時間365日、営業時間を気にせずすぐに相談できる点**。もう1つは、**人に聞く時の「恥ずかしさ」や「聞きづらさ」といった心理的障壁を取り除ける点**です。AIなら、本当に聞きたいことを率直に、何度でも質問できますから。



HALZ HALZ



それはすごい！特に工夫された点や、難しかったことはありますか？

対話フローの設計ですね。当初は利用者情報を多く収集するよう設計していましたが、フィードバックで「**入力項目が多くて面倒**」という声を頂き、利用が伸び悩みました。

そこで、必須項目を大胆に減らし、ユーザーが「**めんどくさい**」と感じるハードルを徹底的に下げよう工夫しました。逆に、プレスリリースや利用規約など、初めて作る書類はAIの助けを借りつつも難しかったですが、思ったよりスムーズに作成できました。



AIに労務知識を学ばせる過程で、苦労された点は？

PDF資料の学習に手間取りました。労務資料はPDFが多く、そのままでは文字や表をうまく読み取ってくれない。最終的にはPDFを文字起こしてから学習させるという対応を取りました。また、**ベースとなる労務相談Q&Aが古かったり、不十分だと、回答精度に直撃**するので、ナレッジの質と量を継続的に充実させることに苦労しています。





逆に、「スムーズだった」と感じた部分は？

ChatGPTが、学習させた専門知識をきちんと理解し、それに基づいた適切な回答を生成してくれた点です。想定以上に賢く、**専門性の高い回答**をしてくれました。



現在のベータ版では、どのようなシーンでの活用をイメージされていますか？

「ちょっとした労務の疑問が浮かんた時、**まずはHALZさんに気軽に聞いてみる**」というイメージです。ネット検索や一般のAIに聞く感覚で使っていただき、当社のナレッジに基づいた、より実務に即した回答の価値を実感してもらえればと思います。



今後の展望について、「こんな風に活用できたら」という理想のイメージはありますか？

「労務相談といえば、**まずHALZさんに聞こう**」というのが当たり前になる世の中になってほしいです。そして、**AIの回答で終わるのではなく、より深い相談が必要な場合に、シームレスに人の社労士につなぐ**。そんな「AIと人の協働」の仕組みを作っていきたいですね。





実際に使ってみた方からの反響はいかがですか？

「AIでここまで答えられるのがすごい」という驚きの声を頂く一方で、「**入力**が面倒」といった厳しいご意見も頂きました。後者の声は真摯に受け止め、すぐに改善を重ねているところです。



人事労務の分野で、AIは今後どのように役立っていくと思われますか？

業務の効率化・自動化が進み、1人でこなせる業務の幅と質が格段に上がるでしょう。このプロジェクトでも、私一人で規約やプレスリリースを作成できました。**AIのサポートにより、人事労務の総合的なマネジメント**を、より効率的かつ深く行えるようになると確信しています。



プロジェクトを通じて、一番大変だったこと、そしてやりがいを感じた瞬間を教えてください。

一番大変だったのは、リリース後にChatGPT-5が登場した時です。性能が大幅アップしたので、「このままではHALZさんが使われなくなるのでは」と本当に焦り、頭を抱えました。幸い、すぐにHALZさんもGPT-5のエンジンを使えるようになり、ほっとしました。やりがいは、**利用者の方から「良かった」「分かりやすかった」という声**を直接いただいた時です。この仕組みを作って良かったと、心から思える瞬間でした。





最後に、社労士の未来について。AIが発達すれば社労士は不要になる、という見方もありますが、村社さんはどうお考えですか？

定型業務や一般的な相談のみを扱う社労士は、確かに厳しくなるかもしれません。しかし、**社労士は本来、人事労務の全領域で活躍できる可能性を秘めています**。給与計算や手続きといった従来業務に加え、採用支援や組織コンサルティングなど、付加価値の高い提案ができる「**総合人事パートナー**」として、むしろその存在価値は高まっていくと思います。AIは、そんな社労士を支える強力なパートナーとなるでしょう。



編集後記

今回のインタビューを通じて、AI活用が単なる効率化のツールではなく、「社員一人ひとりに寄り添い、仕事をより前向きにする仕組み」になり得ることを実感しました。村社さんが語ってくくださったように、AIに任せられる部分と人だからこそできる部分を上手に切り分けることで、働き方の幅がぐっと広がっていくのだと思います。

取材中、印象的だったのは「感謝の気持ちを忘れずに取り組む」という姿勢でした。新しい技術を取り入れる時には不安もつきものですが、それを“成長のきっかけ”として前向きにとらえる姿勢は、私自身も学ぶところが大きかったです。社内報という形で言葉を共有することで、日常の中では気づきにくい小さな挑戦や努力が、読者の皆さんに伝われば嬉しいです。

そしてこの記事が、AIとの向き合い方やこれからの働き方を考えるきっかけになれば幸いです。

取材者 蘭睿姿